

01 みんなが学びやすいキャンパスへ — 千葉商科大学ダイバーシティと無知学のヒント —

「私たちは何を、なぜ知らないのか」ということを起点に、歴史的事象や社会現象を分析していく学問「無知学(アグノトロジー)」が注目されています。知らないことを個人の問題とせず、一つの社会現象として探究の主題に据えたところがユニークで新しいと言われます。

また、無知の研究では、社会的優位な人々が自らの特権性を十分に認識しない構造があると指摘して

います。自らに都合のよい社会や文化が、彼らの特権として自然に備わるものと事実誤認させるのです。これは「白人の無知」という概念で議論されており、「白人」を「男性」「健常者」「民族・国籍」に換えても同じだと思います。

千葉商科大学ダイバーシティ推進委員会は、この「無知学」の考え方も念頭に、全ての学生・教職員が学び・働きやすい環境づくりの推進に努めます。



ダイバーシティ推進委員会
今井 重男 委員長
学長補佐/総合政策学部長

02 多様性を届ける 学生デザイン自販機

人間社会学部の学生8名が「イチカワフォント」を用いてデザインした自動販売機が、6号館下に設置されました。イチカワフォントは、障がいのあるアーティストや支援事業所が協働して生み出した、市川市発のご当地フォントです。多様な表現を尊重する姿勢が込められた文字や絵柄が特徴で、本学が掲げるダイバーシティ推進の理念とも深く響き合います。

学生たちは、2028年の大学創立100周年を見



ダイバーシティ推進委員
松田 和久
学生部長/商経学部教授

据え、「多様性を尊重し、誰もが活躍できる社会をともに作る」という思いをデザインに反映しました。さらに、この自動販売機の売り上げの10%をアーティストへ還元する仕組みを導入し、継続的な支援と賃金向上につなげる取り組みも始まっています。

学生の主体的な学びと社会貢献が結びついた本プロジェクトは、本学のダイバーシティ推進の姿勢を象徴する取り組みとなりました。



03 ダイバーシティ推進の取組

本学は、多様な背景をもつ学生一人ひとりが安心して学び、充実した学生生活を送れるよう、ダイバーシティ推進活動を継続して展開しています。

1 2025年4月より大学生協にて「ハラール認証カップラーメン」の販売を開始しました。宗教上の理由で食事に制限がある学生、とくにムスリム学生にとって、手軽に利用できるハラール食品の提供は大きな支援となっています。ハラール食品の導入は「多文化共生」の実現に向けた大きな一歩です。



2 2024年度に試験的に設置した生理用ナプキンBOXと自動開閉式サニタリーBOXについて、アンケートにより継続設置を望む多くの声が寄せられました。その結果、2025年4月より、女性トイレおよびバリアフリートイレへの本格的な設置を開始しています。生理にまつわる経済的な負担や知識不足といった課題の解消にもつながる取り組みです。



3 将来的にすべての学生が安心して、インクルーシブな防災対策の整備を進めています。身体に障がいのある学生への配慮を取り入れた避難訓練の実施を目指し、避難時に使用する器具の操作方法の確認や安全性の検証などの試行的な取り組みを行っています。本取り組みは、防災への理解と意識を高めるとともに、誰もが安心して避難できる環境づくりにつなげるための重要な一歩です。

